

令和元年度 第3回 岸和田市観光振興計画推進委員会

- 1 日時 令和2年3月30日(月) 10時00分～12時00分
- 2 場所 岸和田市役所新館4階第1委員会室
- 3 出席者 委員 【学識経験者】  
石田 信博(委員長)、百武 仁志(副委員長)、小川 雅司  
【公共的団体の代表者】  
土井 康司、中井 秀樹、山本 義治、井上 實、稲垣 康子  
【関係団体の代表者】  
安田 博宣  
【市民公募】  
石川 真裕美
- 事務局 大西魅力創造部長、西河観光課長、中浜参事、高橋主査  
渡邊(JTB)、柱本(JTB)
- 傍聴者 なし

- 4 議事 (1) 第2次岸和田市観光振興計画 第2期行動計画の策定について  
(2) その他

5 配布資料

- (1) 配席図  
(2) 岸和田市観光振興計画推進委員会委員名簿  
(3) 岸和田市観光振興計画推進委員会規則  
(4) 第1期行動計画の検証と第2期行動計画の検討資料  
(5) 第2期行動計画仕分け採点表

6 内容

- (1) 開会  
(2) 部長挨拶

○大西魅力創造部長

ご紹介いただきました、岸和田市魅力創造部長の大西でございます。

委員の皆様方におかれましては、年度末のお忙しい中、また大変な状況の中、貴重な時間をいただきましてありがとうございます。

また、平素から本市政の推進に多大なるご支援・ご協力をいただいております、この場をお借りいたしまして、改めて厚くお礼を申し上げます。

さて、今日の委員会ですけれども、令和2年度から実施いたします第2期行動計画の策定にあたりまして、事前に委員の皆様方からいただいているお考えを反映させていただいたうえで事業の選択と集中、優先度の仕分けを行い行動計画を策定して参りたいと考えてございます。ただ、

世界中が新型コロナウイルスということでインバウンドをはじめ人の動きというものが一体いつから動いてくるのかということもわからない状況になってきていますけれども、こういうときこそ岸和田がいついかなる時でもきちんと観光客を受け入れる体制を今のうちにしっかり議論しておくということが次に備える市のすべきことなのかなと思ってございます。

委員の皆さま方には活発に議論をいただきまして、本委員会が実りのあるものになるようお願いし、簡単ではございますけれども開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(3) 出席状況報告 会議成立の宣言。

(4) 議事① 第2次岸和田市観光振興計画 第2期行動計画の策定について

○事務局より資料（第1期行動計画の検証と第2期行動計画の検討資料、第2期行動計画仕分け採点表）をもとに第2期行動計画の試案を説明。

○委員長

ありがとうございます。評価 ABCD をどういう基準でやるかは考えなあかんとこですけれども、ご説明頂きました。まず初めに評価の仕方ですけど、統計的にやばいかなというところがあります。例えば同じ A でも緊急度が2点台と重要度が3点台の A と、緊急度も重要度も4点これも A だと。点数自体が4点台の A は分かるけど2点ついているのに何で A やと。そういう素朴な意見が多分出てくると思います。初めてご覧になった方が。ですからこの評価 ABCD というのをいわゆる統計的にやってしまうのか、あるいはそれを考えたうえで我々なりの基準を作って ABCD をつけるのかっていうその辺も考えなければならぬと思いますので、委員の先生方から色々ご意見いただけたらと思います。時間が限られていますので、ご自分と関わりの強いところとか、ちょっとこれは今の説明を聞いてどうも納得いかんなど、それぞれご意見があると思いますので、個別というよりは全体的に色々ご意見をいただくというやり方でよろしいでしょうか。

○委員

全体の平均は分かりませんか。一個一個の評価をしてるのは分かるんですけど、選択と集中ですから何かを取れば何かを捨てないといけないというのは当たり前なんですよね。これは要するに全部取れるっていう、そういう。それとここにある2.5っていう数値、この下は2.4なんぼとかになっているんですかね。できればもう一つ桁数を増やしてもらった方がはっきりするんですけど、仮に四捨五入で2.5なのか、どうなってるのか。

○事務局

有効回答数が10名の委員ということになりますので、たまたま割り切れた数字、最初の事業のターゲット分析だけは9で割っておりますので端数が4.44…になってくるんですけど、他の事業については10で割れてますので小数点第二がないという形になります。

○委員

9と10の違いって何ですか。

○事務局

回答されていない項目があったり。

○委員

そういうことですか。じゃあ2.5というのもジャスト2.5になる？

○事務局

ジャスト2.5になります。

○委員

原点の2.5になったときに以上と見てるのか未満と見てるのか。

○事務局

それは下で見えています。

○委員

その根拠はあるんですか。

○事務局

特になく、低い方でとっています。

○委員

さっき言った通り平均を中心に原点で計算したら多分そういうことがなくなると思うんですよね。

○委員

厳密な言い方をすれば1について5点にしたとか2について3点にしたとか、評価の仕方によってだいぶ変わってくる。これは1から統計処理とかできてないとよく分かってるんじゃない。もう一回やったとしてサンプル10点しかやってないから。そんな統計処理上大したことない。結果として今ABCD出してますでしょ。評価ね。相対として評価出してるので適正なのか適正でないのか、全体として適正なのか適正じゃないのか。お立場色々あって、これおかしいというものもあると思いますけども。そこの議論しといたほうが効率的やと思います。書類は不十分であるということはよく分かっています。相対としてこれはA評価、これはB評価、これはやってるけども、これはなんぼなんでもおかしい、これはなんぼなんでもあげといてという議論をやって集約した方が時間的には効率が上がると思うんですけども。

○委員

緊急度重要度を点数化して平均してあるんですけども、点数についてあまり変わらないのにAとCが出てくるというこれはどんなところですか。

○事務局

緊急度をまず縦軸ですね。それが点数によってどこに上がって行くのかと。横軸が重要度になりますので、これが右のほうへ流れていきますので、その点数を入れさせていただいて、二つが合わさったところがABCDという広い部分で落としています。

○委員

例えば9ページと10ページなんですけどね。9ページの方は（緊急度）2.6と（重要度）3.1で、10ページの方は（緊急度）2.5と（重要度）2.7で評価AとCの差があるわけですね。その基準、Aが何でなのか、Cが何でなのか現れた数値だけでは理解できないんですよ。

○事務局

4つのスペースのどこに入るかっていうところで、2.5で下のランクになってしまうので重要度は両方とも2.5を超えてるのでAかCか、緊急度2.5の判断になってしまっている。

○委員

中心が 2.5 の基準から上に上がるか左に行くか右に行くかということだと思っうんですね。だから数値の問題ではなくて 2.5 以上がどっち行くかっていう風に軸を考えているんだと思っうんですが、それでよろしいですか。

○委員

その 2.5 っていう軸が、正しいんですか正しくないんですかっていうことを言っった。

○委員

それはそうですよね。でもそれは置いとこうということになったから今は 2.5 を基準に上へ上がるか下か右か左かという。

○委員

2.5 の場合は下ないし左の評価をしているということですよ。

○事務局

絶対評価をしてしまっっていることになるので相対評価にならないので分布が基本 A に偏るけど、重要度が同じくらいの数値やのに 2.5 より上か下ちょっとした違いで A と C になってしまう。

○委員長

おっしゃってるのはそこやと思っうんですけども、ずっと関わっっていたら ABCD がどういう意味を持つのかっというのは当然分かるんでしょうけども、初めてご覧になったら、例えばおっしゃっった片っぽが 2.6 と 3.1 で A、もう一個は 2.5 と 2.7 で C と。点数を見たらそんなに変わらへんのかなんで A と C とこんだけ差付けんねん。そういう風にとられかねませんよね。

○委員

緊急度が 2.5 重要度も 2.5 やっったとき、原点ですよ。これは A ですか B ですか C ですか D ですかと聞かれたときに、普通やったらどこにも分類できませんっというのが正しい答えなんですけど、この事務局案ではそれは A に分類するわけですよ。

○事務局

D です。

○委員

D に分類するわけですか。結構 2.5 っってのが多いですよ。だから微妙やなっという。

○事務局

計算しまっして交わるところが 2.5 と 2.5 ということだっったんですが、今数字をとりまっしたら緊急度の真ん中の部分、当初 2.5 と言っっていた部分が 2.71 です。重要度については 2.5 と言っっていた部分が 3.12 になります。

○委員

結構みんな A 寄りの評価がされてるっということやね。

○委員

これで今のさっき出した平均を軸の交点にして ABCD もう一回出っしてみたらどうですか。

○委員

なってみたときに全く結果が同じやったらいいんですけど、パッと見たときになんで 2.5 が原点なんやと誰もが思っうことなので、それを拠り所に 4 段階に評価しているっことは最初の 2.5 の

解釈がおかしいだろうって言われたら結果もおかしいということになってしまうので、もうちょっと丁寧にした方がいいかなという風には思うところ。

○副委員長

ABCって言うと上から順にランク付けしている形になって話が混乱すると思うので少し名称を変えてみたらいかがですか。A群にしてみる、B群にしてみる、C群にしてみる。ABCって言うと上から順々に順位のランク付けがされてるという完全なイメージになって今の不満があるので、評価がA群であればA群を見たときこういう感じだ。B群だったらB群を見ればこんな感じだっていうのをこのまま使っても特には問題ないかなと。

○委員長

そこに例えばBだったら優先的課題群とかCだったら待機的課題群とか書いてくれる日本語を見たら何となくイメージは分かる。その辺考えていただくっていうことで。それと、元々の評価でAとか付いてる、いわゆる今までの議論でのAでいいのかももう一回チェックした方がいいのかもわかりませんね。それを今からやっていくということによろしいですか。

○委員

8, 9, 10 ページなんていうのは全部ランク変わりますよね。

○委員長

ターゲット分析動態調査、これはAやと。みなさんもこのABC感覚的にとらえていただいて、納得できますでしょうか。これは優先的課題やということで我々の意見としてこれはいわゆるAの方にランク付けするということになるので構いませんでしょうか。次の3ページなんですけれども第二期行動計画の試案の宿泊施設のところです。これもAやと。とりあえずは最優先ということで考えてみてください。そしたら5ページのインバウンド観光推進の話ですけれどもこれも緊急度が3点台になってるんですけど、評価Aということです。お気づきのところあったら、これちょっとAと違うやろと感覚的で結構ですからおっしゃってください。6ページになります体験交流型観光の推進、2.8と3っていう点数になってますけれども、先程の基準でいうと評価Aと。

○委員

いやB。

○委員長

次ですね、7ページになります。観光資源を活かした体験プログラムの開発ということですが、この4と3.8で評価A。

○各項目の評価を確認

8 ページ、岸和田ブランドの活用：D

9 ページ、岸和田ならではのお土産開発：D

10 ページ、水産物・農産物の活用：D

11 ページ、スポーツツーリズムを意識した展開：A

12 ページ、岸和田市観光振興協会公式サイト「岸ぶら」などのウェブサイト、SNS などによる情報発信：A

13 ページ、ご当地キャラクターを活用した動画等による情報発信：D

14 ページ、旅行事業者などへの旅行商品化の働きかけ：B

- 15 ページ、フィルムコミッションの推進：A
- 16 ページ、身近なターミナル拠点におけるプロモーション：D
- 17 ページ、広域連携活動における発地でのプロモーション：D
- 18 ページ、近隣市町との連携：D
- 19 ページ、職員向けの研修の充実：C
- 20 ページ、講演会、ワークショップなどを通じての人材育成：C
- 21 ページ、ボランティアガイドのしたことさらなる充実：A
- 22 ページ、岸和田市観光振興協会の独自事業の充実：A
- 23 ページ、教育機関との連携：D
- 24 ページ、観光客受け入れ体制の充実：A

○委員長

というふうに変ったやつもいくつかありますけれども、何かご意見ありませんか。こういう風にまとめたらええんやけども、これは感覚的にA違うんじゃないとか、その逆とかご意見があったら、反映できるものがあつたら反映したいと思ってますので、どうぞ遠慮なくおっしゃってください。

AからDに落ちたやつがあるんですけども、お土産のところですね。ページでいうと8ページ、9ページ。皆さまご意見はございませんか。10ページもそうです。水産物、農産物に関するやつですが。例えば10ページのところですけれども黄色で第二期行動計画の試案という部分に継続してありますよね、けれども評価Dですよ。つまりこの表で行くと優先度も重要度も低いってことになるんですが、それを継続していいのかっていう、そういう議論になってきますね。

○委員

仕分けのイメージでは保留って書かないとあかんとこですよ。その辺がどうしたいか。

○委員長

その前のページもそうですよね。Dに落ちちゃったものとか、CBもそうなんですけど、8ページも継続になってるけども、これもDですよ。その辺いかがですか。事務局の方でも。

○事務局

基本さきほど言われたように課題としてなくなるということではなく、この行動計画の大元の振興計画がいきって、そこでは課題として残っているので。我々、継続という考え方は第一期の行動計画を引き続き進めていきましょう、ただしこの中では保留的課題群ということで最優先ではないという意味合いで継続と。

○委員長

順番付けたら下の方になると。

○事務局

そうですね。振興計画が残っている段階で、これはもういらないよというのは中々言えないと思うので。

○委員長

そうですね。例えばプロモーションのとももそうですよね。16ページ17ページ18ページ、この辺Dですけども。これももちろん継続で、それと例えば18ページだったらKIX泉州ツーリズムビュー

ローのDMO化に向けて連携・協力をしていくと、こう謳ってるんで、それでDやったらちょっと待ってよって言われる。

○委員

逆でね、例えば僕岸和田ブランドやってます。それからDMOもやってますし、人参の彩管も囀ってますけど、逆言ったら相対やさかい入れといたらええと思えますけど。こっちでやってる方は別になんでもええやろと。岸和田市がどうのこうの言っても関係なしにこちらはこちらで動いてますからね。だから、それはそれでええんちゃいます。そちらの方で頑張ってください。で、協力はさしてもらいますっていうくらいでええんちゃいます。岸和田市がやってくれるわけでもないし、示しているだけです。それより本当は一番最初のターゲット分析ありましたでしょ2ページの。これ反対したの僕なんです。集計見たら僕だけ反対して。なんでかって言ったら確かターゲット分析ってやってたんちゃうんと。先生3人もおられるんやからここは丸投げしてターゲット分析なり何なりやってもらったらええんちゃいます。専門的にやっておられる方で学生も使ってきちっとターゲットの分析なりあるいは動態分析なりやった方が、もっと簡単に出るんちゃいます。確かやってたでしょ振興計画の中で。言うてたはずやのに何でこんなん出てくるやろなって思ってね。だから僕は反対してたんですけどね。

○委員長

どうですか、事務局としては。また続けてやるということですか、ターゲット分析。

○事務局

事務局としても中々ターゲットっていうのを明確にできてないところなので第二期では明確にしていきたいなとは思っておるところです。

○委員

やるんやったらやるでかまへんからね。もう専門に任しや。

○事務局

計画なので実施主体がどうなるかというのはまた別の話で、岸和田市としてターゲットをしっかりと明確にはしていきたいなというところで、行動計画としてはこういう形で第二期を進めていくで良いのかなと思っておるところです。

○委員長

確かに慣れてる方っていうか専門の方がやったら早いので、誰がやるかは別にして委員がおっしゃったように専門の人に任せるのも一つ。

○事務局

はい、やり方も含めて進めていきたいと思えます。

○事務局

問題提起っていうわけじゃないですが、先程AがDになってるというお話があって、例えば9ページでいうと3.1っていうことで3.12より以下やということ落ちてるんですけど、平均は小数点2位までとってるんですが、評価上みんな小数点1位しかないんで3.1だけを拾ってあげるとこれはDになるかなと思ったんです。例えば8ページ10ページは、要はこの9ページを見る限りどんどん新しい商品が開発されていくことについて繋がってくるのかなって、ここの評価はそう思いました。14ページの旅行商品の働きかけも、重要度3.1なのでここは評価Bに落ちてますけ

ど評価 A として、ここは最優先課題という形で旅行商品の開発とか、この二つだけ評価はどっちでもふれるなどと思います。

○委員長

この評価 ABCD は基準を決めて数字の上でこうなってるけども、これは別に統計学の授業でも何でもないから、やっぱり、けどもその点数をみたうえで、それを込みでこれはやっぱり A 評価として最優先課題にするべきものやとか、点数はこうだけども逆に優先度を落としたりとかその逆もありですね。だからこの評価っていうのを、考え方ですね、単純にこの数字の上でパッと割り切ってしまうのかっていう、とかおっしゃったように政策的なとかそういう意味も込めて。

○事務局

あくまでこの数字であったり ABCD は目安であるわけで、その中で皆さんのご意見でやっぱりこれは最優先やでっていうご意見があったら頂戴しときたいなどと思います。

○委員長

我々が付けた点数ですね、これは平均点みたいなもんですから。我々の自分の思ってることを数字に置き換えて評価したら、平均点として委員全体の意見はこう思ってる、こういう結果になったけど数字の上で。けども皆さんが納得したうえで数字ではこうだけども優先課題として取り上げるべきだとかですね、その逆もあると思うんです。

○副委員長

質問なんですけれども 17 ページ 18 ページ評価 D になってるじゃないですか。泉州で岸和田市だけこの優先度が低いと言いますか保留課題になるというようなことでよろしいですか。他とのバランスは。

○委員長

そういうところですね。

○委員

各市町村全部入ってるからね、動かない。だから商工会議所で全部よけて、そこで動かしてる。難しい。

○副委員長

泉州の中で岸和田市だけこれが観光振興計画の中で評価 D と。

○委員

他で作ってる場所もあればないところもありますから。だから別にどっちでもいい。

○事務局

皆さんの中で委員としてやっぱりこれは優先度高いよねっていうご意見も我々頂いてまた来年度の仕事に反映していきたいと思います。

○委員

国とか大阪府の政策でいえば 18 ページの DMO の研究も岸和田市だけ D でいいのかなというような気はするんですけど。

○事務局

これはおっしゃっていただいたように岸和田市だけでどうにかなるのかということと、KIX 泉州ツーリズムビューローについては堺市さんが中心に色んなこと考えてると。



○委員長

どうぞご自由にご発言ください。一応こういう結果になっているけども、いやちゃうねんとか私はこう思うとか。

○委員

私ボランティアガイドですので、ボランティアガイドの件を聞いたかったのが、ここの中のアンケートだけで解決すると民間だけに任せていいのかなっていうのが、私たちが今の状態でいきますと決して私たちだけではないとは思ってます。個人の方でやっておられる方もいらっしゃるんですけども、ほぼほぼ私たちが岸和田のボランティアガイドとしてさせてもらってるようなありがたいといえば本当にありがたいんですけども、それを担うところまで力が及んでいないのにこういう風な評価、かえって私たちがここまで担わしてもらっていいのかなっていうのがありますし、これからもさせていただけますが段々と高齢化してきてますし、自分たちの質の問題も非常に抱えておりますのでその辺の責任感と、その辺義務もありますし、どういう風に役所の方は捉えられてるのかなというのが聞きたい。

○事務局

ボランティアガイドさんにつきましては集計表では性質上民間が多いということで9票入っているわけですが、それに加えて市であったり外郭団体も実施主体になるべきなんじゃないかという数値も頂いてますんで、民間というかボランティアガイドさんがすべてをやるというわけではなくて、必要に応じて市が連携させていただいたり外郭団体の観光振興協会さんであったりとかそういったイメージでつけられてると思いますんで、そこは全部丸投げするというわけではなくて連携してやっていくと。ただ活動の中心というのは市というよりは民間さんとまとめさせていただいてる。

○委員

すみません私、言葉足らずだったと思うんです。今までずっと市の協力、一緒に色々な形でさせていただいてますのでその辺は誤解されずに。ただボランティアガイドとして何かするときには私たちの団体ぐらいたやってるような状況なんで、ある意味反省という意味で、自分たちがある意味独占してボランティアガイドを独占してる部分があるんじゃないか、そういう不安があったんです。だからもっと広く皆さんもされたいと思うんです。会としてじゃないんですけど私個人としてはそういう風に思ってるんです。どんどん競争して質を上げていくことが大事かなと。私たちは観光というよりも歴史文化を一生懸命させていただきたいという、郷土の文化を知ってもらいたいというような団体ですので、また観光を一生懸命しようというような人がそれはそれであってもいいんじゃないかなと常に思ってますので、独占してはいけないなという気持ちがあってここで言わせていただいたんです。

○委員長

よろしいですか。他ご意見、ご発言されてない方がでしょうか。

○委員

原点はいじってもらったらランクは変わりましたよね。変わったものがより重要だと思うんですね。個別で見ると非常に評価が高いんだけど、全体の中での優先順位を付けたら落ちてしまう。これが何なのかを考えていかないとあかんところで、結構、水産物や農産物がガタンと落ちてる

んですよね。皆さんそれぞれ高い点数を付けてるんだけど、いくつかのプログラムの中からするとまだ早くて他にやらないといけないことがあるだろうという位置づけだと思う。次の段階、スケジュール感をランクが変わったものについては見ておかないといけないかと思う。今はもしかしたら手をつけるのがまだ早いかもしれないけどもやらないといけないと、スケジュール感をどこまで取り込んでやっていくかを我々に教えてくれているのではないかな。

#### ○委員

言う通りで、各項目ごとに段階をつけていらっしゃるが、1～23までの評価の4段階でもあれば縦と横で評価がつけやすいかなと思った。1～23を何段階評価にするかは別にして、それをやっていただかないと、この中の優先順位が決めにくかったから、皆さん各項目やる中でやっぱり評価が上がってきてしまう感じがします。全体評価的にこの中で点数を付けるなりして、この中で最重要がどれっていう感じをつけた方が点数ひろがるような、細かく評価できると思います。

このときはインバウンドはコロナ関係あるから絶対あかんというところがありまして。日本人来てもらって、付随してインバウンド来てもらったらいんじゃないかというのが強いので。

#### ○委員

確かにインバウンド、外に出るのもそうですが、これだけ弱いわけですね。実態として日本の中でもそういう部分が非常に落ちてると、統計的に出てくると思うんですけど、それは日本のインバウンドだけじゃなしに、日本の観光全体として日本人が関わる部分が落ちてきてるわけですね。インバウンドだけに特化してもずいぶん弱い部分ちゃうんか、やっぱり大事なものは日常の市民であり国民であり、それらの人が観光にというところを基本に据えらんとあかんのかなと反省もしてるんです。第一回目の時にそのあたりのことを言いたかったんですが、流れの中ではやっぱりインバウンドはかなりの重点施策的になってきてるんですが、インバウンドは大事だが、一般の国民に対する観光意識も大事じゃないかなと今回は特に考えました。構成はこれでいいと思います。

#### ○委員長

コロナでインバウンドは特に意見が変わってくるかもわかりませんね。日本全体だったりとか。ちょっと前から観光公害も言われている。京都なんかは。

#### ○委員

長い目で見ると、目先のことをあまりにも今は見すぎている気がするんです。短期中期長期というようなレベルで物事を判断していかないと、短期的にはインバウンドですけども、長い将来岸和田の良さを見てもらわないと。みんなそれは土地の人が自分たちの街を愛するという気持ちを育てないといけないと、それは非常に長期的なことだと思いますけどね。それで私たちまたボランティアの話になりますけども、ボランティアで何ができると言ったときにまず子供達、地元の人達に郷土のことを知ってもらう。そういう運動をしたいなというのがあった。当然来られた方に案内する。地元の高齢の方がいろんなことを知っておられる。そういうのも聞きながらそれを伝えていく。そういうこともしないとイケないなと考えていたが、なかなかできなくて、やっと来られた方を案内するだけから始まってそればかりをしていた。でもやっぱり今度は地元の人に知ってもらおうと大阪近辺の人に来ていただけたらありがたいなということで企画ウォークというのをしたんです。そのことによって、こんなそばにこんな人があったんやけども知らなか

ったんやなど。そこからの派生で地元を愛する気持ちも育めるんじゃないかと思って去年と今年はそのような企画ウォークをしたんですね。ですから本当は、PTA とかと協力しながら子供さんにそういうお話をできたらなと考えたんですけど私の 2 年間はできなかった。長期的な視野も持って、即座にはできないけどもそういうのをやっとなないと岸和田の将来というのもいつかは目先だけやったらぼしゅちゃうんじゃないかなと思います。

○委員

岸和田はやっぱり関空に近いので、そういう意味では近畿の市町村の中でもこのあたりはどうしてもインバウンドが外せないですよ。以前はどちらかというと日帰り、立ち寄り観光みたいなものが中心だったが、いったんインバウンドのほうに方向がむいて、でもコロナの影響でここで考えなおさなあかんのは岸和田としてそもそもどういう人に来てもらいたいのか。一般的にたくさん来てないではなくて、たくさん来ていたとしてもそれとは別にどういう人に来て欲しいかを考えるという意味では、ターゲット分析をしっかりとやるということは意味があるのかなと思うんです。仮に隣町で外国人がぶわっと来てものすごく消費が増えたと、それを見ていやいやうちは違うと。うちは日本人とか周辺、市民の方にたくさん歩いてもらいたいし、まちをもっとよくしてもらいたいと。そこをやるんだというのであれば、そこをしっかりとやっていかないといけないと思うんですけど。空港が近いのと日本の国も観光立国とか言って最初は住んでよし訪れてよしと言っていたのが、いつのまにか住んでよしがどっか消えてしまって、訪れてよしで 3 千万いったら今度 4 千万みたいな数を追いかけるような方向に国が向いてるんでどうしてもそっちに自然と吸い寄せられるんですけど。今回、こういう厳しい環境に置かれて、いい意味で日本の観光を考えるタイミングを持てている。もう一回しっかりと考えることができればいいかなと思います。ちょうどそこに岸和田市が今第 2 期行動計画を検討してるのはいいタイミングだと思います。

○委員

基本的に違うんです。インバウンド言い出した最大の理由は何かという、全部通過地点なんですよ。この地域にほとんど来てない。京都とか難波とかに集中してる。実は関空ができるときの最大の反対意見は通過都市になるという意見やった。それで反対というのがたくさんあった。紆余曲折あっていろんなことが起こったんですけども、自分たちのところが通過地点になって早く言えば公害じゃないですけども、飛行機の何かが飛んできてそんなとこばっかりやないかと。だからそういうことの光の部分としてある程度の観光産業が必要じゃないかと。それがインバウンドだと。岸和田市の市長が変わったというのはちょっと関係ないですよ。

○委員

方針は変わりましたよね。

○委員

方針は変わりましたね。フリーWi-Fi についてなんぼ言うてもやらなかったのに市長変わったとたんになった。そんなところはあります。それは別にして基本的にはおっしゃられた通りです。観光公害もあるし、非常に急速なあれは必ず反動を生みますから。色んな考え方があると思います。短期的に見れば、要するにインバウンドを含めて廃止するというのは正しいかもわからない。グローバル化の影の部分なんです今回のものは。これはご意見いろいろあると思いますから、今の

時点を見て、だからやめといたらよかったやないかいという議論はちょっと早い。もう少し議論の余地があると思いますから、今はとりあえず国内ということになると思うんですけど、ただ一つだけ。皆さんお忘れだと思うんですけどこの日本の国というのは人口が縮んでるんです。縮んでる国を支えていくためにどうしたらいいか。支えていくためには一人の生産性を上げるか、海外からのあれを含めて人口の維持を図るか。人口の維持を図るのに要するに外国人の労働者の問題がある。例えばドイツであるとか移民の問題でものごとくもめた。移民の問題を避けようと思ったら短期滞在者、要するに観光で来てすつと帰ってもらうのが一番問題ないんです。そういうのを含めて今こういう状況だからそう言うのはよく分かるが、将来的にこの国がどのように生きていったらいいかっていうことはちょっとスケール感の違う問題です。先ほどお二人がおっしゃった郷土愛がものすごい大事。アイデンティティをなくしてしまったら観光もへったくれもないんです。だからアイデンティティは絶対大事なんです。せやけどもそれと観光とインバウンドについてはちょっと議論を切り離して考えていただいた方が多分いい。この騒ぎはできる限り私自身の事業からしたら1か月も2か月も早く終わって欲しいんですけども、ひょっとしたらもうちょっと長引くかもわかりません。7商工会議所でこの近辺のバスツアーをやったんですよ。うちのガイドが自分の郷土の良さを全然知らなかった、勉強しましたという。そういうこともありますから。それこそ長い目でどう結論でるかわかりませんが、ちょっと見ていただいた方がいいかなという気がします。

#### ○委員

私は基本的には今のやられてることで濃淡はあってもこの方針は変わらないと思いますのでこれに賛成させていただきます。ただやっぱり岸和田の地盤沈下というのは、私は仕事を泉大津中心にやってたんですけど、泉大津のほうが岸和田の駅よりも南海線の乗降客が上やと知らなかったんですよ。そういう意味で言うたら泉佐野よりも岸和田の方が低い。岸和田は泉州で堺以南で2番目やと言われておったのが、人口移動やないですけど電車の乗降客が泉大津や泉佐野よりも少なくなってるんですよ。特急の止まる駅は岸和田なんですよ。ということはこの地域での岸和田の位置というのは名前だけでも上になってるん違うかと思うけど、本来的に言うならばもっと岸和田の地位を向上させる必要があるだろうと。観光資源としてはそういうことをやっていただいたらいいんですけども。たまたま今年いかなごが2日間で終わったんですよ。その時漁師さんともいろいろ話したんですけども、結局小さいのは獲ろうと思ったら獲れると。しかし子供の代や孫の代を考えてあげるんやったら今辛抱した方がいいということではいかなごを2日で中止したんですよ。それと前から言われてたんですけど、祭というのは観光とはちょっと関係ないという言い方をやろうやないかと私も言ったんですけど。先ほどから言ってるように岸和田にはだんじり祭という300年の歴史がある観光財産があるんです。これをもう少しうまく使う方法をお互いに考えたらどうかというのが基本的な考え方の中にあるんですが、頭が変わろうが誰が頭をやろうが私は岸和田はだんじりがなくなるちゅうことはないと思ってます。だんじり＝民衆の力なんです。そやから基本的な力というのは岸和田は非常に強いと。ただ先ほどから言ってますとおり今やっぱりグローバルな時代になってるということですけども、だんじりもそうなんですよ。各町の構成人員では今のだんじりの運営はできなくなってる。一つの町のだんじりには町民さんが関わってるのは3割しかないんです。7割が他の地域から来てもらってるんですよ。これを受け

入れて岸和田の祭は運営できてるんです。私の町を見ているも応援団というのが来ていただいている部分があるんですけども貝塚とか泉佐野からそういうところから来てるわけですよ。もう少し幅広く、岸和田は岸和田の特徴があるからこれを大事にするのと同時に泉州という地域の良さをお互いに見ていくのも必要じゃないかと。基本的にはこの方針に従って皆が努力さえすればなんとかなるやろうというのが一つの考え方の中にあるので、そういう意味でもっと極端に言ったら言葉に書いたようなもんだだけで動いてないということをお互いに認識されたらどうかと、このように思います。

○委員長

ありがとうございます。他に。

○委員

恐らく冊子にして前へ出てくると思うんです。ここにいる委員さん皆さん興味持って再読されると思うんですけども、一般のどこへ出たときにできるだけこんだけいいもの作っても理解していただいて読んでもらえるような本にしないと恐らく 1000 部作っても 999 部ぐらいごみ箱に行くんじゃないかなど不安があるんです。色んな資料もらっても我々でも一緒ですけどパッと最初見て読みやすかったら最後まで読もうかなという気になるけど最初のスタートが大事やと思いますんでね。色んなところ行って色んな冊子もらうんですけど横浜が一番見やすいです。こういう観光も市の広報も。市の広報も大きいですけども色んな広報が出てるわけです。読みやすいし見ても、横浜はこんななんやと分かるんで。そういうところの工夫もあると思うんです。おっしゃったように地元でもっといい観光がたくさんありますんでね。というのは何年前前にバスガイドさんが牛滝の紅葉を見にたまたま来たときに京都よりきれいな紅葉あるんやなあ。そのガイドさんは季節になったら他所に行っても地元の方乗ってますんで、岸和田にもこんな紅葉きれいなどありますよ。京都行かんでもあるんやから皆さん地元にもっと見に行きましょうよとガイドするんですとおっしゃってたんですけどね。

○委員長

ありがとうございます。いかがですか。ご自由にどうぞ。

○委員

この評価 ABCD というのが先生方がおっしゃってたみたいに、私も A はよくできましたという風にどうしても視覚的に見てしまうので、逆に言ったらここはよくできてるんやなあと課題としてとらえるのではなくてできてるんやとここに来てない会議に出席してない人はそういう風に読むんじゃないかなという風に思ったのと、私もボランティアガイドはしてないんですけど、普段例えば市の他所の友達と会ったりするときにお土産を渡すときは例えばだんぢり屋さんのお菓子を用意するとか。そういうなるべく岸和田ってこういうおいしいもんあるんですよって。水ナスの漬物を遠くの親戚に送ったりとか、そういう風に郷土愛っていうのは私もすごい持ってますし、郷土愛っていうたらあれなんですけど例えば小学校の社会の授業なんかで岸和田市のこと勉強したり多分今もしてると思うんです。私子供たち大きくなってんですけど、確か低学年ぐらいのときに岸和田の地図書いたりそういうので勉強してたと思うのでやっぱり多少なりともみんなベースには持っていると思うんです。だんぢりに関わってる町に住んでる子は小さいときから祭囃子聞いて祭に参加するっていうのがもうベースになってるので、やっぱり何も無いようなところに

比べたら少しずつでもそういうのは蓄積はされていると思うんです。

○委員長

ありがとうございます。他の委員の方これは言っとかないとというご意見がありましたら。

○委員

18 ページの近隣市町村の連携のところだけ試案がないんですけど、これは黄色い上のやつですよ。マークも落ちてきてるからどうなってるのかなと思って。マークは上にあげてここは黄色なんですよね。

○事務局

すみません。

○委員長

他の委員の方々ございませんか。色々意見出ましたけど、評価の点とそれももう一度先生詳しくおっしゃっていただき実際やっていただきましたけども事務局はもう一回確認していただいて。

それと評価 ABCD なんですけど記号でいくのかやめといた方がいいのではないかという意見の方が多いと思います。

○事務局

ABC ではなく最優先とか日本語で表現させてもらった方がいいのかなと考えております。

○委員長

それとわかりやすくということ。見てごみ箱に直行することは避けると。多くの方にわかりやすくご覧いただくということですね。

○事務局

途中で委員長にも言われましたが、試案のところで継続と書いている部分の表現とかは我々としては第一期行動計画と同じ内容という意味合いなんですけど、それやったらそれをもう一回載せるか、継続は継続で構わないですか。

○委員長

継続は当然継続だと思うんですが、元で行くと C や D がついているのに継続という言葉が出てるといふそれとの関係でわかりやすくこういう意味で継続するんだと、評価は低いけどもこれは継続に値するんだと、こういう形でやっていくんだということをわかりやすい形で。

○事務局

その辺も調整させていただきます。

○委員

D のところも下が保留課題群になってるので保留課題で継続って書いてるとわかりにくくなると思うので。言葉考えていただいた方がいいと思います。

○委員長

バランスですよ言葉の。わかりやすく矛盾がないように。評価は評価でいいんですけどもこの点数と一緒に並べていいのかということですよ。今も意見ありましたがこやけどもこういうのが大事やとかそういうのもありますから我々の評価ということでそれはそれでいいと思うんですけども。

○委員

A～Dに仕分けして優先度を測りますと書いてますよね。優先度ではだめなのかとか。

○委員長

それは先ほどおっしゃったように全体の中での優先度となってくることもあるし、個別にしたらみんな大事なところでやってるんで、その中で2年経って振り返って見たらこういう元の表現ではABCみたいになったとかそういうところですね。

○委員

広域連携の優先度が低いっていうのはまずい。

○事務局

皆さんの中でそういうご意見があるんやったらDではなくCにしとこうかというのを議論していただいたらありがたいです。

○委員長

さっき評価という言葉でええのかなって言うてたのはそこなんですよ。

○事務局

先生言われてたように評価というと確かに。

○委員長

判定下りましたみたいなどころがあるでしょ。2年間やったけどこれはもうあかんでとそういう評価を下したと誤解があったらよくないから。

○事務局

評価はやめときます。

○委員

本来は二つ聞かないといけないですよ。現状の点数とあるべきところの差が分かればいいんですけど。多分これはこうなって欲しいなという点数を付けてる人と現状を点数付けてる人がいるんでごっちゃになっていて難しいなというところがある。評価やと現状分析になるし優先度やとこう持っていきたいっていう意味合いになると思いますんで。

○委員長

優先度という言葉を生かすとすれば今後の優先度ですよ。今までの経緯を踏まえたうえでのこれからの優先度をどういう風につけるかそれをどう判断されるか。

○事務局

細かい調整は委員長と事務局で調整させていただいて完成に至るということで皆さんに送らせていただきます。

○委員長

ある程度煮詰まったら皆さんにご覧いただいて。それでよろしいですか。最終的なところは私と事務局で責任もって皆さんの議論もとにまとめなおしますのでもたご覧いただいて違っていたらなんなりとおっしゃっていただいたらと思います。議案に対してはこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○事務局

本日は長時間にわたりありがとうございました。また寒い中、お体の方もくずさないようによろしく願います。また委員長と調整させていただきまして第二期行動計画に基づいて観光行政

進めてまいりたいと思います。皆さまの任期が今年度で終了となります。本当にたくさんのご意見をいただいたと思います。ありがとうございました。4月以降の予定をお伝えしておきますと5月初めに各団体様へは委員のご推薦を依頼させていただきます。また市民委員様につきましては広報岸和田で募集して参ります。また現在は12名の委員会でやっていたんですけども規則の中では15名以内となっており、あと3人余裕がございますので、先ほどインバウンドの話も出てきましたし専門的な委員の方に入っていただくこともどうかなと考えておりますのでまたご相談させていただくこともあろうかなと思います。それでは2年間ありがとうございました。簡単ではございますが私からのあいさつとさせていただきます。

○委員長

本日の委員会これで終了したいと思います。ありがとうございました。

(5) 閉会

以上